

読書ノート

けやき通信を書き始めるころ、秘密保護法集団的自衛権、憲法改正問題、とリ返しのつかない原発事故、さらに原発をベースロード電源になどという問題が起るなんて想像してなかった。子どもたちが明るい未来を願っていた。

知る人が知る「たまこと」、知らない人に教えてあげたいような、秘めておきたいような。しからば「どういう人物？ 私には、「真の自由人」といわれるこの人のことを語り力がない」。20代のうちに去会たことは幸運です。

●見知らぬオトカム、たまことの肖像

池内紀著 みすず書房
文章の力はすごいと思う。すでに亡くなった人が活字を読むことで生きて語りかけてくれる。得がたい著者によって、自分の肖像を見せられたことを、たまこともよろこんでいるだろう。70才になって、こんな本に出合うなんて、人生また「まだ」いろんなことが待っているのですね。

- 本棚のたまことを再読しています。30~40年ぶり？
- たまことの世界 矢内原伊作著 みすず書房
- たまこと・父親 辻潤 折原信三著 平凡社
- たまこと著
- 画文集 山の声 東京新聞出版局
- ノイローゼよさようなら みすず書房
- たまことセレブション I 山と森 平凡社
- 山からの絵本 創文社
- (この本は私にとって特別な1冊です)
- 極上のユーモアと絵もほんとはいいな。



4/6 車で博多からの帰途、大分市で、海側の道沿いに、黒々とした森が延々と続いて、体がふるふるほどの感動！目に見えない力がみなぎっている。宮脇昭氏の指導された新日鉄住金大分製鉄所の森だとすぐわかった。埋立地が40年ほどでこんな深い森に、その土地本来の色んな種類の樹木による↓森は、地震、津波、火災などからいのちを守ってくれる。

20代から90代の方まで通信を楽しみに読んでくださる人がいて、うれしいお便りも頂いて。通信が縁でよい友と出会う。書くことが私の生活のリズムになって、たのしくて続いたのだと思います。これからもうどうしようもなく、

けやき通信 2014年4月 No.250号

— 錦織佳代子 —
庭にけやきの若葉が
広がりはじめて

けやき通信 250号に

250号記念発行おめでとうございほす。大田岳(2,500m)にあつて、次は釜岳(3,000m)へ向けがバツ下さリ 鎌倉市 藤原

倉敷の藤原氏からメッセージが届きました。No.1は1990年6月25日。(平成2年) 24年になろうとしています。よく続いたなあ〜。庭のけやきは随分成長して5,6本の寄せ植え又株を2本と3本の株にし、これから家中に緑の風を送ってくださる。